

# てらこや埋文 冬

2007年

## 第6回公開授業『古代人の知恵に挑戦！～古代のお米をつくってみよう～』を開催しました

山口大学埋蔵文化財資料館では、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様に身近に感じていただくことを目的として、平成13年度から公開授業を開催しており、今年度で6回目となります。

今年度の公開授業は日本のお米のルーツとされる赤米をつくり、土器で炊いて食べてみるという内容です。山口大学教育学部と共催で、山口市大内御堀管内にある山口大学教育学部実習農場で延べ5回に渡って行い、小学生4人、保護者・一般11人と教育学部学生に参加していただきました。以下で授業内容をご紹介します。

### 5月27日(土)～田植え～

あいにくの雨の中でしたが、教育学部技術専門職員の徳永さんに代かきをしていただいた約53mの水田に豊作を願いつつ心を込めて田植えをしました。

### 6月24日(土)・8月26日(土)～草取り～

稲の成長は予想以上に早く、6月24日には長さ約4cm、8月26日には約100cmに成長していました。また、成長具合がまちまちであることも観察できました。昨年まで畑だったためか、水田にはほとんど雑草が生えませんでした。しかし、畦には雑草が生い茂っており参加者全員で協力して雑草を取りました。

### 10月7日(土)～収穫～

稲は9月17日の台風13号でかなり倒れてしまいましたが、さわやかな秋晴れの中、無事に収穫を迎えることができました。最終的に稲は長さ約120cmにまで成長しました。収穫には参加者がつくった木包丁などを使って穂摘みをし、残りは鎌で根刈りをしてはぜ架けをしました。

### 10月21日(土)～脱穀・籾すり・赤米を食べる～

前回同様、秋晴れの晴天の中、公開授業最終日を迎えることができました。昭和30年頃まで行われていた足踏み脱穀機による脱穀や唐箕による選別を体験した後、箸こぎ、臼と杵による籾すり、てみとザルによる選別を体験しました。この作業は大変手間がかかりましたが、手分けして根気よく行いました。なお、今回のお米の収穫量は玄米で約10kgでした。台風の影響もあり、収穫量は現在のお米の約1/3にとどまりました。

お昼には土器や羽釜で赤米入りご飯を炊いたほか、ヤマメの塩焼きや猪鍋をつくりました。赤米は現在のお米よりもやや硬かったものの、甘い味がしました。ヤマメの塩焼きや猪鍋も大変美味しく好評でした！

### 公開授業を終えて

今回の公開授業について、受講者からは「楽しかった」「お米を食べるまでにどれだけ大変かわかりました」「簡単なものが食べられる時代こそ、こういう体験は大切と思いました」「もみがらをむくのが大変だった」などの声が寄せられました。参加者の皆さんには、実際体験することによって楽しんでいただくとともに、米づくりの歴史や大変さ、お米の大切さを感じていただき、自分なりの発見をしていただくことができました。

来年度も埋蔵文化財資料館では、今年度の授業内容を踏まえて赤米をつくる公開授業を開催する予定です。どうぞご期待ください！

(田畑直彦)



田植え



稲の観察



石包丁などによる穂摘み



臼と杵を使った籾すり



参加者の皆さん



## 美濃ヶ浜遺跡出土品

### 山口県を代表する「製塩遺跡」

美濃ヶ浜（みのがはま）遺跡は、山口市の南部、秋徳二島地区の南端に位置しています。現在は干拓のため半島状に本州とつながっていますが、大昔は瀬戸内海に浮かぶ小島の一つでした。

この遺跡は、大正14年（1925）に発見され、山口県初の縄文土器の発見地として早くから考古学界的注目を集めていました。しかしながら、その後長期間放置されていたため、遺跡は荒廃し、人々の記憶からも忘れ去られていました。

遺跡が再び注目されたのは、昭和35年（1960）になってのことでした。この年、縄文時代遺跡と古墳時代遺跡、さらに地形変化の調査を目的として、「山口県美濃ヶ浜遺跡学術調査団」が結成され、発掘調査がおこなわれたのです。調査の結果、縄文時代前期から晩期に至る各時代の土器とともに、古墳時代の竪穴住居跡1棟、炉跡1基が発見されました。

竪穴住居跡はやや小型の方形のもので、床には2ヶ所の炉が設けられており、土師器・須恵器などの日常に用いる食器とともに多数の製塩土器が出土しました。また、特殊なものとしては滑石（かっせき）製の子持ち勾玉や盾形の模造品なども出土しました。

炉跡は、砂層の上に須恵器と土師器の大きな破片を敷き詰め、その上に黄褐色の粘土を貼りつけた構造のものでした。これはおそらく製塩時の加熱による砂浜の水分の上昇を避ける工夫と推測されます。

以上の発掘調査成果から、美濃ヶ浜遺跡は古墳時代の製塩遺跡であることが確認されました。山口県内での確実な製塩遺跡の発見はこれが初めての例であり、出土した製塩土器は遺跡名から「美濃ヶ浜式製塩土器」と命名されました。

### なぜ祭祀遺物が？

それでは、なぜ美濃ヶ浜遺跡から滑石製の祭祀遺物が出土しているのかを考えてみましょう。

現在でも、豊作祈願・大漁祈願などの祭祀行為は頻繁におこなわれています。これは、食料の獲得という行為が人知を越えた「自然環境」に大きく依存しているためです。

古代の塩づくりでは長時間火を燃やし続けなくてはならず、また鹹水（塩分濃度の高い塩水）を得るためには海藻を乾かす作業も必要でした。人々は様々な祭祀道具を用いて「晴天」とともに豊かな塩の生産を祈ったのでしょう。

（横山成己）



美濃ヶ浜式製塩土器の形態変化

時期が新しくなるほど  
土器の脚部が短く長くなります！



## 埋蔵文化財のお仕事 vol.7

このコーナーでは、多岐にわたる埋蔵文化財の仕事を紹介します。埋蔵文化財の仕事では土を掘る体力も必要ですが、実は正確さ・緻密さが非常に重要で、根気のいる作業が多いのです。今回紹介する埋蔵文化財のお仕事は…

### 色付け

色付けとは、復元のために入れた石膏に色を付ける作業です。展示用と写真撮影用では色の付け方が異なります。

#### ～使用するもの～



#### ～色付けの方法～

1. 新聞を広げ、石膏を入れた土器をその上に置きます。絵の具がはみ出して土器につかぬように、土器の縁にドラフティングテープを貼ります。
2. 絵皿に絵の具を出して土器と似た色を作ります。写真撮影用の場合は土器より少し淡い色に、展示用の場合は出来るだけ実物の土器に近い色にします。モデリングペーストを少し混ぜると石膏の凹凸感や傷が目立たなくなります。
3. 作った色を石膏に塗っていきます。平筆を使うとベタ塗りがむらなく仕上がります。質感を出したい場合には面筆で細かく塗っていきます。
4. 絵の具が乾いたらドラフティングテープを剥がして完成です。

(植木美佳)



## 発掘調査で使う測量機器 vol.3

### 基準点

発掘調査では、調査地点の正確な場所を記録する必要があります。方法としては基準点から測量をおこないますが、この基準点とはどのようなものでしょうか。

基準点とは、緯度や経度、標高などが与えられた、三角点・水準点・電子基準点など、測量の基準となるものです。

山口県内には3,198ヶ所、日本全体では126,316ヶ所存在しています(平成18年3月31日時点)。

日本水準原点は、東京都千代田区永田町1-1、国会前庭にある憲政記念館にあり、東京湾の平均海面からの高さが示されています。

日本経緯度原点は、東京都港区麻布台2-18-1、ロシア大使館の裏手にあります。ここはかつて東京天文台(現在の国立天文台)の測量器具が設置されていたことに由来しています。

基準点の設置を含めた国土の測量行政は明治時代からおこなわれ、民部省、工部省、内務省と担当が換わっていき、その後は陸軍が担当することになりました。というのも地理情報は古くから軍事機密事項を含んでいたからです。今でも外国には軍事機密として地理情報を明らかにしていない、もしくは精度を落としている国が多数あります。

現在は国土交通省国土院が測量行政を担当しており、基準点は都市計画の整備などとともに、埋蔵文化財調査にも活用されています。

(有本浩紀)



左端の写真は吉田キャンパス内にある4級基準点です。中央と右端の写真は学内での発掘調査のために設置した大学独自の基準点です。動かないようにしっかりした所に設置されています。学内にはこの他にも何カ所か基準点が存在します。



## 岩国市由宇歴史民俗資料館

岩国市由宇歴史民俗資料館は、瀬戸内海に面した国道188号線沿い、JR由宇駅と神代駅のほぼ中間に位置します。

1・2階の常設展示室では、由宇町の産業（廻船業・造船業・漁業・農業・織物業・商業）、歴史（町内の遺跡から出土した土器や石器、古文書）、暮らしに関連した資料のほか、同町出身で本学の廣中平祐元学長が幼少時代に使用した学習机も展示されています。また、毎年特別展が開催されており、入館者は年間約1200人を数えるそうです。今回は、教育委員会由宇支所の神崎前さんと歴史民俗資料館運営委員会委員の山中克美さんに館の展示や特色についてお話をうかがいました。

（質問）歴史民俗資料館が舟の形をしているのはなぜですか？

山中「江戸時代末期から明治初期を中心に、地元の米や山陰・北海道の物資を舟で京阪神に運び、その帰りに京阪神の商品を地方へ運んだ廻船業が由宇町の発展の基礎を築いたことに由来しています。」

（質問）特別展で力点を置いていることは何ですか？

山中「由宇町内住民のみなさんに展示品の出品などで協力していただきながら、町内の歴史や暮らしに関わるテーマを選んで開催しています。今年度開催した「時代を写したカメラ展」では、館収蔵品のほか町内の愛好家所蔵品を借用し、カメラと町内の古い写真を展示しました。また、子供たちを無料で写真撮影したり、ラムネ飲料をプレゼントしたりして、気軽に来館していただけるような工夫もしています。」

歴史民俗資料館の約1.5km北には昨年オープンした人工海浜公園「潮風公園みなとオアシスゆう」があり、瀬戸内海の美しい海に親しむことができます。歴史民俗資料館と合わせて、岩国市由宇町へ是非足をお運び下さい！

（田畑直彦）



岩国市由宇歴史民俗資料館外観



展示内容を説明していただいた山中委員

お問い合わせ先  
岩国市由宇歴史民俗資料館  
〒740-1432  
岩国市由宇町神東614-10  
Tel 0827-63-1515

## 2006年秋 埋蔵文化財資料館の活動

### 11月 11/6 (月)

第4回大学情報機構埋蔵文化財特別展  
『あしもの遺跡シリーズ2 古墳時代の吉田遺跡』オープン。  
（於：山口大学総合図書館 開催期間：平成19年3月30日まで）

11/9 (木)・10 (金)

吉田構内農学部附属家畜病院（吉田遺跡）で立会調査を実施。

11/20 (月)

第22回企画展『吉田遺跡発掘調査速報展2006』オープン。

（※開催期間：平成19年3月2日まで）

### 12月 12/2 (土)

山口大学大学祭（飯山祭）にてイベント『大学情報機構2006』を開催。埋蔵文化財資料館は総合図書館2階にて企画展示『幕末期の吉田キャンパス』を開催。

12/5 (火)～1/9 (火)

吉田構内東亜経済研究所予定地（吉田遺跡）にて予備発掘調査を実施。

12/23 (土)

本年度実施した公開授業『古代人の知恵に挑戦！—古代のお米をつくってみよう—』の収穫祭を開催。



第22回企画展オープン



吉田構内東亜経済研究所予定地での調査風景

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信  
第7号  
『てらこや埋文』2007 冬

### 編集・発行

山口大学埋蔵文化財資料館  
〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1  
Tel/Fax 083-933-5035  
E-mail yuan@yamaguchi-u.ac.jp

発行年月日 2007.1.15.